

表現とは「変調 = modulation」であり、
鑑賞とは「復調 = demodulation」である。
同時に、
鑑賞とは「変調 = modulation」であり、
表現とは「復調 = demodulation」である。

表現者は「変調 = modulation」し、
鑑賞者は「復調 = demodulation」する。
同時に、
鑑賞者は「変調 = modulation」し、
表現者は「復調 = demodulation」する。

表現者と鑑賞者による双方向の創造的な営為、
それこそが、あらゆる芸術表現の基軸となる。

表現者が「変調装置 = modulator」として発信し、
鑑賞者が「復調装置 = demodulator」として受信する。
同時に、
鑑賞者が「変調装置 = modulator」として発信し、
表現者が「復調装置 = demodulator」として受信する。

表現者と鑑賞者による双方向の創造的な営為のための
変復調装置/modem = modulator-demodulator となるべく、
いま、ここに、「Modulation 8」が起動する。

2021 AUG.

起 動

「Modulation 8」は、2021 年 8 月、東京に
おいて、起動した。
長く続く、新型コロナウイルス感染症の世界的流
行という状況の中で。

新型コロナウイルス感染症の世界的流行は、人々
のあらゆる活動に大きな影響を及ぼし続けてい
る。芸術文化もその例にもれず、あらゆる場面
での活動の制約を受けている。このような厳しい状
況にあっては、優れた表現者は、この状況に毅然
と立ち向かい、あるいは柔軟に対処し、時には
この状況をあえて受け入れ、それぞれの出自に
根ざした表現活動を切り開いている。

この状況から、芸術活動におけるふたつの側面
が想起される。

一方は、表現者の主体的・内面的動機による「自
律的展開」である。

他方は、表現者を取り巻く外的な要因による「他
律的展開」である。

コロナ禍においては、芸術活動の「他律的展
開」への意識が高まるをええない。しかし、表
現者を取り巻く状況が厳しい時代であるからこそ、
表現者の主体的・内面的動機による芸術活動
の「自律的展開」への意識を高く持たなければ
ならない。社会が危機に瀕しているからこそ、芸
術活動の根源が問い直されるのである。

「Modulation 8」は、芸術活動における「自
律的展開」と「他律的展開」への意識を高め、
コロナ禍においても、芸術活動の基軸となる「表
現者と鑑賞者による双方向の創造的な営為」を
十全に機能させるために、あらゆる可能性を探
求する。

時間軸映像 ○○空間軸映像
映画 ○○映像
写真 ○○映像
音楽 ○○映像
美術 ○○映像
形式性 ○○叙情性



MODULATION 8



Armando Lulaj
アルマンド・ルライ
BREAKING STONES (2017)

1980年ティラナ(アルバニア)生まれ。アーティスト。創作、リスクテリトリーに関するテキスト執筆、映画監督、コンフリクト・イメージ制作活動を行う。彼のリサーチは、グローバルな文脈における、経済力・架空の民主主義・社会的格差の境目を強調することを目的としている。主な探究テーマは、政治権力、汚職、美術館制度の批評など。ルライは多くの国際的な展覧会や映画祭に参加。彼の作品は、様々な重要な個人及び公共のコレクションに収蔵されている。アルバニアのティラナにある現代美術ディスカッション・センター (DebatikCenter of Contemporary Art: D.C.C.A) の創設メンバー。
www.debatikcenter.net



Hiroko Komatsu
小松浩子
Silent Sound (2020)

1969年神奈川県生まれ。2010～2011年、自主ギャラリー・プロイラースペースを主催。毎月個展を開催。2015年、ドイツのフォトフェスティバル「The 6th Fotofestival」で発表された作品が、イタリアのMAST財団に収蔵される。2018年、初個展から一貫して行ってきたギャラリー空間の内部を写真で覆い尽くす展示方法が評価され、第43回木村伊兵衛写真賞を受賞。2019年に「DECODE/出来事と記録ーボス工業化社会の美術」(埼玉県立近代美術館)に出品。2021年、ニューヨークのdieFirmaで個展「誠心部誠意課」を開催。ドイツ・ヴュルツブルグ美術館(ヴェルズリー大学内)で個展「Creative Destruction」を開催中。8mmフィルムで撮影した映像作品のフィルム自体を展覧会場に張り巡らせた展示「SILENT SOUND」(MEM)を開催。写真作品に留まることなく、その活動範囲を拡張している。
<http://komatsu-hiroko.com/>



Ikuhisa Sawada
澤田育久
ejection device (2022)

1970年東京都生まれ。写真家。2012～2013年「The Gallery」、2014年よりオルタナティブ・スペース「The White」をそれぞれ主宰。主な展覧会として、「closed circuit」(2011/TOKI Art Space / 東京)、1年間にわたる毎月新作による連続展「closed circuit, monthly vol.1 - vol.12」(2012～2013 / The Gallery / 東京)、「Ikuhisa Sawada Aug.2020 - Jul.2021」(2020～2021 / The White / 東京)、αMプロジェクト2017「鏡と穴ー彫刻と写真の境界」vol.2 (キュレーター: 光田ゆり / 2017 / αM / 東京)、「space / guide / volume」(2021 / CAVE-AYUMIGALLERY / 東京)など。2021年「BIENNALE DE L'IMAGE TANGIBLE」(パリ)参加。2017年に自身のレーベル「The White」より写真集「closed circuit」刊行。2018年にRONDADEより「substance」刊行。
<http://www.sawadaikuhiisa.com>



Marco Mazzi
マルコ・マッツィ
FOLLOW US OR DIE! (2020-2022)

1980年フィレンツェ(イタリア)生まれ。2004年フィレンツェ大学 近・現代イタリア文学科卒業後、東京に在住。文化協会「リレーショナル映画協会 Relational Cinema Association」(東京)を設立。早稲田大学でビデオアート上映会を開催し、2009年から2012年まで運営。アルバニア滞在中には、写真家及び随筆家として、ティラナの「鷹部門 Department of Eagles」及び「現代美術ディスカッション・センター DebatikCenter of Contemporary Art」を協働。現在、フィレンツェ・東京・ティラナの三都市を拠点に活動している。
https://www.instagram.com/marcomazzi_flow/



Osamu Kanemura
金村修
Are You Public Domain? (2020)

1964年東京都生まれ。1992年、東京総合写真専門学校在学中にオランダ・ロッテルダム写真ビエンナーレに招聘され、1996年、MOMAによる「世界の注目される6人の写真家」の1人に出展される。1997年、日本写真家協会新人賞、第13回東川町国際写真フェスティバル新人作家賞、2000年、第19回土門拳賞、2014年、第39回伊奈信男賞を受賞。写真集に「Spiders Strategy」「I can tell」「Concrete Octopus」「MARSHMALLOW BRAIN WASH」ほか、著書に「漸進的写真家」タカザワケンジとの共著「挑発する写真史」がある。
<https://kanemura-osamu.com/>



Shozaburo Ishida
石田省三郎
unknown diary (2021-2022)

1946年岐阜県生まれ。1972年、弁護士登録。沖縄・松永事件などの弁護に携わる。著書に「東電女性社員殺害事件」弁護士著など。弁護士業務のかたわら、2017年、京都造形芸術大学通信写真コースを卒業。2018年、福島第一原子力発電所事故により「帰還区困難区域」に指定された地域をJR常磐線代行バスから撮影した写真集「Radiation Buscape」(デザイン 鈴木一誌+山川昌悟、解説 大崎洋子)を刊行。個展に「Crossing Ray」(Hiju Gallery、大阪、2019)、「Integral」(IG Photo Gallery、2021)、「TSUKIKI JONAI」(PHOTO GALLERY FLOW NAGOYA、2022)ほか。FOTOZQIO 2021 Artists。第56回神奈川県美術展写真部門準大賞受賞 (2021)。IG Photo Gallery主宰。
<http://showishida.jp/>

※事前にチケットを購入の上ご来場ください。
※プログラムは会場にてループ上映されていますので、期間中はご自由に再入場いただけます。
※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、37.5℃以上の発熱が確認された方や、マスクを着用していない方のご入館をご遠慮いただきます。

映像、写真、音楽、美術など個別のジャンルに収まりきらない表現者の発表の場の開拓と周知のため開催する上映会として、今回は非ナラティブ性を特色とした映像作品がセクションされた。

2022.3.26-27

MODULATION 8



実施日: 3月26日(土)・27日(日)
上映時間: 13:00～19:00
会場: The White
入場料: 1,000円
主催: Modulation 8

ALTERNATIVE SPACE
TheWhite

東京都千代田区猿樂町2-2-1 #202#205
2-2-1 #202#205 Sarugakuchō,
Chiyoda-ku, Tokyo
<https://www.the-white-jp.com/>

